

地域医療と災害緊急医療に対応する

スーパー診療所構想

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン代表理事
一般社団法人アジアパシフィックアライアンスCEO

大西健丞

ジャパン・プラットフォーム(2000年8月設立)

NGO、経済界、政府の連携により、大災害などの緊急時にNGOに初動資金を迅速に提供するしくみ。これまでに300億円を超える資金（ODA資金、民間寄付金）が流れ、日本のNGOの活動は飛躍的に広がった。



NGO47団体が参加

アジアパシフィックアライアンス（A-PAD）とは

日本の経験をアジアの災害支援に活かす

アジアパシフィック アライアンスは、アジア太平洋地域での大規模災害時に、各国・地域の企業、NGO、行政が各組織の壁を越えて連携することで、それぞれが持つ情報、人、資金、モノを共有・活用し、より迅速で効果的な支援を目指す組織です。

ミッション

アジア・太平洋地域で頻発する大規模災害に備え、加盟国間で互いに連携し合い、効果的・効率的な災害援助を届けることで、人々の安心と安全、地域の復旧・復興をサポートします。

特徴

アライアンス3つの特徴

- 1 アジア各国間の「助け合い」の促進
- 2 ビジネスセクターの力を活かす
- 3 現場で活躍する災害支援人材の育成



アジア パシフィック アライアンスの強み



最速かつ最適な支援の実施

1秒でも早く「救う」ために、現地企業・NGO・行政等と予め連携体制を構築し、最速かつ最適な支援ができる

企業・団体の特性に応じた連携

1日でも早い被災者の生活再建を実現するために、企業の特徴を活かした災害支援や復興支援をアレンジすることができる

相互支援を通じた域内融和の促進

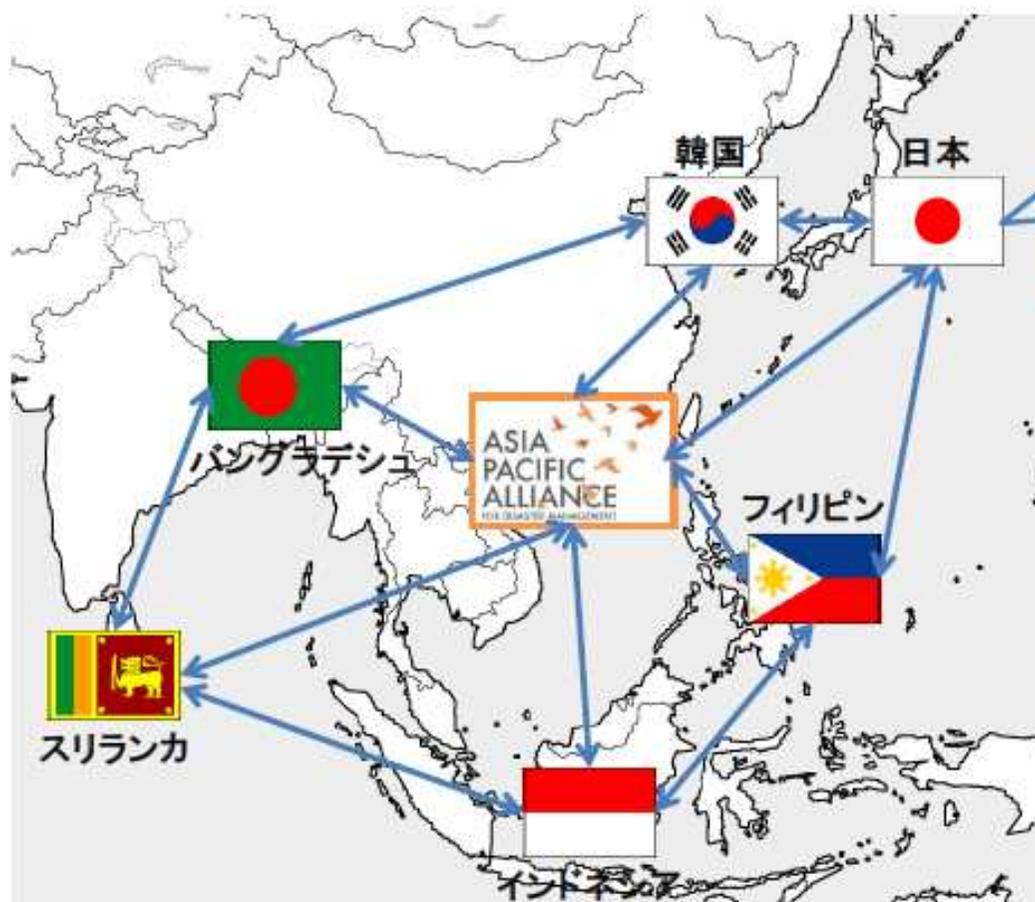
アジアの人々の心を1つにするために、各国の民間を巻き込んだ寄付や物資などを仲介し、どの国も支援者になり、受益者になることで「助け合い」を可視化する

少しでも早く、ひとりでも多くの命を救うための新たな仕組み

協力企業
 800社以上

現地パートナー団体
 108団体

加盟国
 6ヶ国



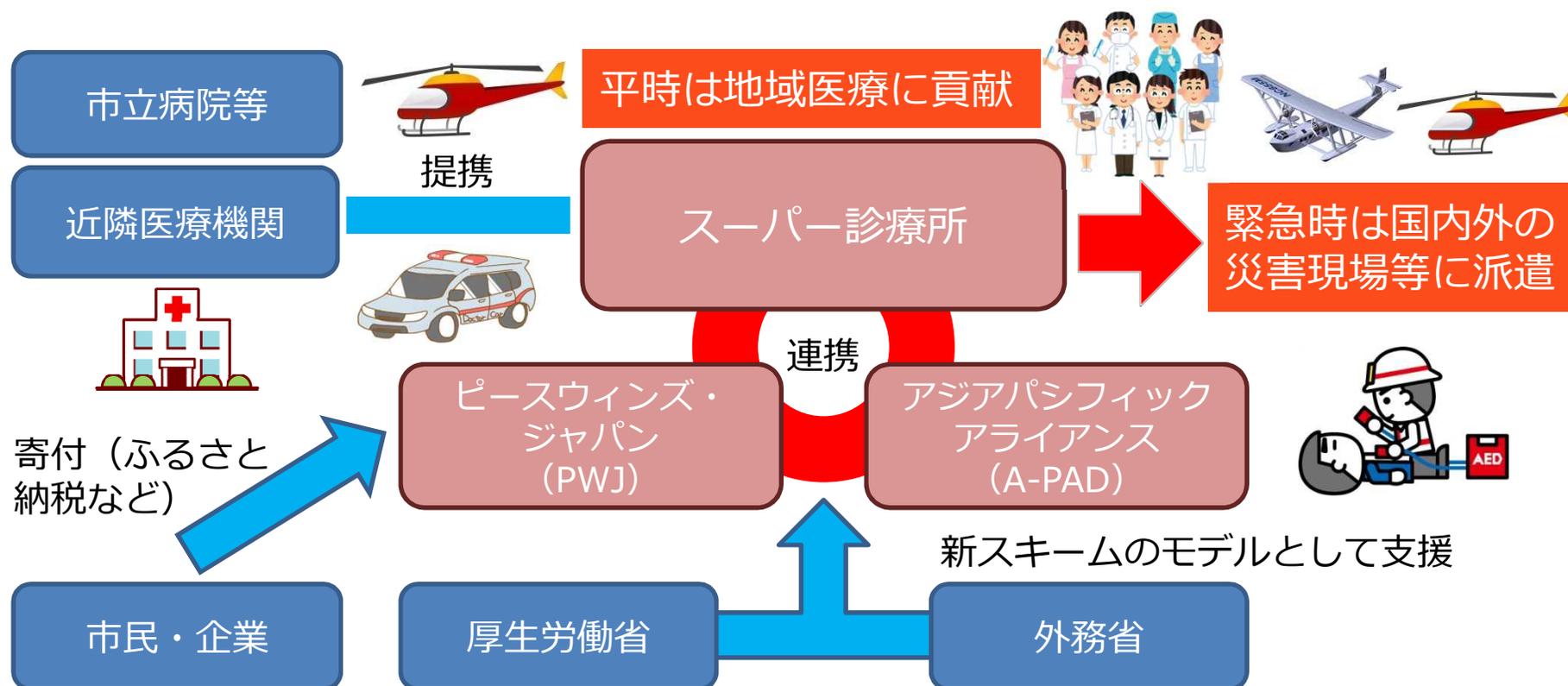
- 国境を超えた相互協力による域内融和の促進
- 経済界、NGO、行政が組織の壁を超えて連携
- 緊急時を見据えた平時からの防災訓練、連携体制構築

「過疎地医療×国際緊急医療」 オーバーラップ構想

医療過疎を解消し、脳血管障害等に対応するため、専門医を中心とする医療チームの拠点を神石高原町内に置き、災害やパンデミックなどの緊急時にはチームを国内外に派遣する。地域の病院や近郊都市の大学病院などと提携し、ヘリ、4駆のドクターカーなどの搬送手段を確保する。

スーパー診療所とは？

- ✓ 専門医を含む豊富な医療スタッフを擁する。
- ✓ ヘリなどの緊急搬送手段を持ち、複雑な疾患の場合は近隣の大病院に移送する。
- ✓ 過疎地をベースとするが、災害等の緊急時には国内外に医療チームを派遣する。



ヘリの効果的運用：医療搬送 & 災害対応

Civic ForceとPWJは気仙沼医療圏で、ヘリによる救急医療搬送を支援。従来のドクターヘリよりはるかに低コストで医療過疎の解決を図っている。



| | 新型医療搬送ヘリ | ドクターヘリ |
|----------|--|---|
| 初期コスト | 中古機体を活用し 1 億円程度 | 機体3億円 + 高度な医療機器で計6-7億円 |
| ランニングコスト | 年5000-6000万円程度で運用可能 | 年間2億円以上 |
| 運用の柔軟性 | 山間部や離島に配置すれば、都市部の病院まで片道飛行で搬送でき、時間が大幅に短縮できる。夜間も飛行可能 | 夜間は飛ばない。都市部（県庁所在地等）に置かれているため、往復が必要で、山間部や離島側の天候によっては飛ばない |